



松山赤十字病院

日本赤十字社



Matsuyama Red Cross Hospital

Cancer News

■Doctor's Voice (乳がん・前立腺がん)

意識することから始まる、乳がんの早期発見

乳腺外科部長 西山加那子

妥協なき診断精度の向上、高度な手技と
先進技術を融合した手術療法の確立

泌尿器科部長 矢野 明

がんの検診と予防

健診部 人間ドック健診専門医 村上 一雄





意識することから始まる、乳がんの早期発見

乳腺外科部長 西山加那子
Nishiyama Kanako

乳がんは、日本人女性の9人に1人がかかるとされ、その罹患数は年々増加しています。一方で、早期に発見し、適切な治療につなげることで、良好な経過が期待できる疾患でもあります。そのため、乳がんについて正しく知ることがとても大切です。

乳がんの治療は、手術・薬物療法・放射線治療を組み合わせで行います。手術では、がんの広がりに応じて乳房を温存する方法や全切除する方法が選択され、希望される方には乳房再建術を行うことも可能です。また、薬物療法についても、乳がんの性質（サブタイプ）に応じた「個別化治療」が行われています。乳がんは一人ひとり性質が異なり、ホルモン受容体の有無やHER2タンパクの有無などによって分類されます。さらに、患者さんの年齢や体力、希望などを考慮しながら、その方に最も適した治療方針が選択されます。

このように乳がん治療は進歩していますが、その効果を最大限に生かすためには定期的な検診受診による早期発見が重要です。マンモグラフィ検診は乳がんの早期発見に有効な方法ですが、日本では受診率が十分とは言えません。また、高濃度乳房など、乳房の状態によっては、検診だけでは病変が見つかりにくい場合もあります。

そこで近年重視されているのが「ブレスト・アウェアネス」という考え方です。これは、日常生活の中で自分の乳房の状態を意識し、普段と違う変化に気づくことを大切にする取り組みです。入浴時や着替えの際に自分の乳房を意識し、普段の状態を知っておくことで、小さな変化に気づくことができます。しこり、皮膚のへこみ、左右差、乳頭分泌など、いつもと違う変化に気づいた場合には、次の検診を待たずに、早めに医療機関を受診しましょう。

ブレスト・アウェアネスについて

「自分の乳房を意識する生活習慣」

ブレスト・アウェアネス #4つのアクション

<p>1 普段の自分の乳房を知る</p> <p>乳房セルフチェック</p>	<p>2 気をつけなければいけない</p> <p>乳房の変化を知る</p>
<p>3 次の検診を待たずに</p> <p>乳房の変化を感じたら医療機関へ</p>	<p>4 40歳になったら</p> <p>定期的に乳がん検診</p>

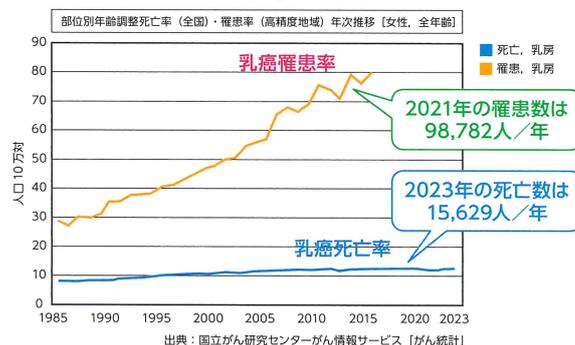
①普段の自分の乳房の状態を知る
「自己触診」とは異なります
普段の状態や月経周期による変化を感じておきましょう

②乳房の変化に気をつける
普段の状態を知っておくことで
変化に気づきやすくなります

③変化があれば医療機関へ
次の検診まで様子を見ずに
早めに医療機関へ受診を

④40歳になったら定期検診を
マンモグラフィは「死亡率を減少させることが証明された」有効な検診です
40歳以上の方は2年に1回検診を！

日本人女性の9人に1人が乳癌に罹患





妥協なき診断精度の向上、高度な手技と先進技術を融合した手術療法の確立

泌尿器科部長 **矢野 明**
Yano Akira

前立腺がんは日本人男性が最も多く罹患するがんで2021年には9.6万人(男性がん患者の17.2%)が診断されています。年齢とともに罹患率が上昇する傾向にあります。男性の生涯罹患率は10%と非常に多いことも特徴です。1年間で1.3万人の患者さんが亡くなっています。愛媛県においても年間850~900人が前立腺がんと診断されています。前立腺がんの発見契機として最も多く重要なものはPSAという腫瘍マーカーです。80%以上の患者さんはPSA値の異常によって発見されます。PSA値の異常があるとMRIを撮影し、疑い病変を描出します。ついで入院していただき超音波で前立腺を観察しながら、系統的生検(組織検査)によって確定診断を行います。当院にはMRI画像とエコー画像を融合させる装置を導入しており、MRIで指摘された部位を正確に狙撃し、がんの見落としを最小限にしています。前立腺がんの悪性度と病期診断(進行の度合い)を評価して治療方針を相談します。早期がんでは手術や放射線療法、進行期がんでは内分泌療法や抗がん剤治療が行われます。

今回は当院で行っているda Vinciを用いたロボット支援手術を紹介いたします。da Vinciの特徴はカメラを通して手術部位を3次元かつ高倍率で視認することができます。また使用できる鉗子は人の関節よりも自由度が高く、手ぶれがないので精緻な操作をすることが可能です。前立腺がんの手術は前立腺の摘除、リンパ節郭清、膀胱尿道吻合などの手順を必要とし3~4時間程度で終了します。出血量は少なく、傷も小さいので退院

までの期間も5~6日です。手術後の尿失禁(尿漏れ)や性功能障害は生活の質を低下させますが、da Vinciを用いることで早期の失禁改善や性功能の温存も可能です。da Vinciの先進技術だけではなく、当院の常勤医師は全員da Vinciの実施認定資格を有しており、うち3名はプロクター(手術指導医)です。手技の向上と先進技術を融合した手術を実践しています。



da Vinci 鉗子



KOELIS-Trinity-2022



がんの検診と予防

健診部 人間ドック健診専門医 **村上 一雄**
Murakami Kazuo

がんは現在我が国における死亡原因の約1/3を占め第1位であり、一生のうち2人に1人が罹患するといわれています。また部位別にみると全国、愛媛県ともがん罹患数では、男性は前立腺がんが、女性では乳がんが1位となっています。従って日本人の健康寿命を延ばし、健康に生活するためには、がんに対する対策は大変重要な課題となっています。以前がんは不治の病として大変恐れられてきましたが、現在は早期発見や早期治療により治療できる可能性も高くなっています。そのために検診は大変重要な役割を果たしています。

がんの予防のために最も重要な対策は禁煙です。喫煙により肺、食道、胃、膀胱、子宮など多くのがんの発症が増加します。また喫煙者の副流煙を吸入した非喫煙者にもがんやそのほかの病気の発症が増加します（受動喫煙）。また感染症に関連して発症するがんもあります。B型・C型肝炎ウイルスによる肝細胞がん、ヘリコバクター・ピロリ菌による胃がんやヒトパピローマウイルスによる子宮頸がんは早期発見により早期治療が可能です。次に、飲酒や熱い飲食物、動物性脂肪、塩分の取りすぎも注意が必要です。さらに肥満、果物・野菜の摂取不足、運動不足とがんの発症との関連も示唆されています。

当院健康管理センターでは胃がんに対して胃透視・胃内視鏡検査・ヘリコバクター・ピロリ菌検査、肺がんに対して胸部X線写真・胸部CT検査、乳がんに対してマンモグラフィ検査（2026年度より乳腺エコー開始予定）、前立腺がんに対してPSA検査やその他の腫瘍マーカー検査、子宮頸がんに対してヒトパピローマウイルス検査などを行っています。またがん全体の発見のためPET-CTがん検診も行っています。

検診を受診することにより症状がない早期にがんを発見できる可能性が高くなります。また、がん検診の受診のみでなく、要精密検査の対象になった時には精密検査を確実に受診することが重要です。

日本人のためのがん予防法

喫煙	たばこ は吸わない。他人のたばこの煙をできるだけ避ける。
飲酒	飲むなら、節度のある 飲酒 をする。
食事	食事は偏らずバランスよくとる。 * 塩蔵食品、 食塩 の摂取は最小限にする。 * 野菜や果物不足 にならない。 * 飲食物を 熱い 状態でとらない。
身体活動	日常生活を 活動的 に過ごす。
体形	成人期での 体重 を適切な範囲に維持する（太りすぎない、やせすぎない）。
感染	肝炎ウイルス 感染の有無を知り、感染している場合はその治療の措置をとる。機会があれば ピロリ菌 感染検査を行う。

国立がん研究センターがん予防・検診研究センター予防研究部「生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究」

市区町村によるがん検診

部位	対象者		受診 間隔	検査方法
	性別	年齢		
胃がん	男女	50歳以上	隔年	胃部X線検査または胃内視鏡検査
肺がん	男女	40歳以上	毎年	胸部X線検査、喀痰細胞診
大腸がん	男女	40歳以上	毎年	便潜血検査
子宮頸がん	女	20歳以上	隔年	視診、子宮頸部の細胞診および内診
乳がん	女	40歳以上	隔年	乳房X線検査（マンモグラフィ）



松山赤十字病院 がん診療推進室

〒790-8524 愛媛県松山市文京町1番地
TEL089-926-9630 FAX089-926-9614

日本赤十字社



松山赤十字病院
ホームページ
がん診療

Matsuyama Red Cross Hospital
Cancer News
SPRING 2026